

科目名	医療と文学 Literature & Medicine		担当教員 (研究室番号)	ドライデン いづみ (502)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	2年次 後期	科目 区分	教養・基礎科目		選択 区分	選択	単位数 (時間)	2(30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	可
											オープンクラス	可
科目 目的	医療や看護に関する文学作品を読みながら、豊かな感性を身につける。また、医療や看護を、一般大衆である読者はどのように受容していたのか、そして作家はどのようなメッセージを読者に伝えようとしていたのかを考察する。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連する DP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度) C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)										
到達 目標	1. 医療文学の内容理解とともに、症例や病状、医療従事者の特徴を捉え、作品内容を様々な視点から考察・分析する技術を身に付け、グローバル社会において自らの考えや展望を説明することができる。 2. 医療用語(看護師や医療従事者が使用する言葉・フレーズ)と日常用語(言葉・フレーズ)や、章・パラグラフごとに内容を考察し、キーワード(フレーズ)や要点に言及しながら、現代における医療事情・問題・解決策・展望をグループ討議で発表することができる。 3. 各作品の内容や登場人物の背景・言動・感情に言及して、例を挙げて自らの意見を論理的に考察及び述べることができる。											
成績評価方法 (基準)	毎回の授業課題提出(90%) レポート課題(10%) ※レポート課題については、ルーブリックを用いて評価する。											
再試験の有無と 基準等	・無：各回の授業課題、およびレポート課題によって評価するため、再試は不可能。											
教科書	授業で資料・ワークシートを配布する(紙媒体・PDF)。											
参考書等	授業中に適宜紹介し、各回の授業内容の関連資料を配布する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	医療文学読解のための医療専門用語や読解力を習得しながら、多言語多文化共生社会において看護師・医療従事者の在るべき姿・医療の在るべき形・問題点・解決策・将来展望を患者・家族及び友人・医療従事者の視点から考察する。また、チーム基盤型学習(TBL: Team Based Learning)やSNA(ソーシャル・ネットワーキング・アプローチ)を取り入れ授業を進めるので、チームのメンバーとして責任を持って積極的に自らの意見を発言し、グループ・ディスカッションや毎回の課題に取り組むこと。											
備考	医療文学作品の読解力向上のため、多読を推奨する。課外学習として、図書館や担当教員研究室に設置の医療文学書籍を読み、意見・感想文を記述・提出すると、エキストラ・ポイントとして成績評価に加算する(提出枚数制限無し)。詳細は1回目授業にて説明する。何回かの授業で学外協力者の話を聴く場合もある。											
回	学習項目					学習内容					主担当 教員	授業 方法
1回	イントロダクション					授業の進め方、教科書、出欠席の扱い、成績評価に関する説明をする。チーム(グループ)を決め、チーム・ワーク(グループ・ディスカッション)の方法を説明する。「備考」欄に記載した課外学習についても説明する。イギリス出身の脳神経科医でノンフィクション・ライターのオリバー・サックスの生涯と作品について配布資料とともに説明し、視聴覚教材にて作家の声と話を実際に聴き、チーム・メンバーとディスカッションする。					ドライ デ ン	講義 演習
2回	『音楽嗜好症』第5章					「耳に残るメロディー」について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。					ドライ デ ン	講義 演習
3回	『音楽嗜好症』第7章					「音楽の才能」について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。					ドライ デ ン	講義 演習
4回	『音楽嗜好症』第11章					「なぜ耳は二つあるのか」について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。					ドライ デ ン	講義 演習
5回	『音楽嗜好症』第16章					「失語症」について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。					ドライ デ ン	講義 演習
6回	『音楽嗜好症』第20章					「パーキンソン病」について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。					ドライ デ ン	講義 演習
7回	『音楽嗜好症』第26章					「音楽と感情」について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。					ドライ デ ン	講義 演習
8回	『音楽嗜好症』第29章					「認知症」について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。					ドライ デ ン	講義 演習
9回	オリバー・サックスの他の作品と作品中で取り上げられている症状や病状の紹介・説明					オリバー・サックスの他の作品として、自伝の『道程』、映画化された『レナードの朝』、『妻を帽子とまちがえた男』、『幻覚の脳科学 見てしまう人びと』、『火星の人類学者』、『偏頭痛百科』、『手話の世界へ』を作品中で取り上げられている症状や病状とともに紹介・説明する。チーム・メンバーと実際の作品や配布資料を確認し、ディスカッションをする。					ドライ デ ン	講義 演習

10回	劇作家・詩人ウィリアム・シェークスピアの作品	シェークスピアの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデン	講義 演習
11回	小説家チャールズ・ディケンズの作品	ディケンズの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデン	講義 演習
12回	作家ジョージ・オーウェルの作品	オーウェルの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデン	講義 演習
13回	作家アーサー・コナン・ドイルの作品	ドイルの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデン	講義 演習
14回	小説家カズオ・イシグロの作品	イシグロの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデン	講義 演習
15回	まとめ：医療と文学の関係について フローレンス・ナイチンゲールの愛読書と作家・作品への言及・引用文	授業で学習した内容も含めて、看護師・医療従事者として読んでおきたい医療文学作家・作品リストを配布し説明する。レポート課題の説明をする。	ドライデン	講義 演習

学 習 課 題

1 回目事前課題：医療文学についてその時点で知っていることをメモしておく。
 1 回目事後課題：配布資料に目を通し、授業内容の確認をしておく。
 2～8 回目事前課題：前週の授業で学んだ内容を思い出ししながら教科書にメモをしてまとめておく。
 2～8 回目事後課題：配布資料から学んだことやチーム・メンバーとグループで要約した内容を思い出し、自らの意見や考えをまとめておく。
 9～15 回目事前課題：前週の授業で学んだ内容を思い出しながらメモをしてまとめておく。
 9～15 回目事後課題：配布資料から学んだことやチーム・メンバーとグループでディスカッションした内容を思い出し、自らの意見や考えをまとめておく。
 尚、15 回目及びレポート課題（配点 100 点）は、Teams の「課題」に設定された期日までに提出する。

実務経験を活かした教育の取組